

社会学 〈 P 3 〉

教員名

教養・医学教育大講座 医療社会科学
准教授 本郷 正武

I 一般学習目標

「社会学 sociology」はどのような概念や理論によって「社会」をとらえてきたのか。本講義では「社会運動」を切り口に、分析枠組みや理論の生成と変遷を紹介することで、現代医療をとりまく社会の一端に触れる。

II 個別学習目標

下記のような「社会の謎解き」の方法論と先行研究、具体的事例を学んで欲しい。

- ・現代社会で「あたりまえ」とされていることをいったん「疑う」
- ・「あたりまえ」となるまでのプロセスについて見る目を養う
- ・国家／階級／階層／秩序などのマクロな社会理論で使用する概念を理解できる
- ・相互行為／役割／逸脱などのミクロな社会理論で使用する概念を理解できる
- ・社会運動／集合行為の定義と移行関係について理解できる
- ・資源動員論の論理構成について理解できる
- ・フリーライダー問題の生起とその解決について理解できる
- ・「新しい社会運動」論の論理構成について理解できる
- ・集合的アイデンティティが求める運動の成果について理解できる
- ・「被害者」になるプロセスについて理解できる
- ・社会運動と暴力の関係性について理解できる
- ・ライフスタイルをめぐる社会運動が生起する背景について理解できる

III 教育内容

以下のように講義を進める。進度により内容が前後することがある。

1. イントロダクション
2. HIV/AIDS をめぐる集合行為（1）——「薬害」と性感染
3. HIV/AIDS をめぐる集合行為（2）——エイズボランティアの生起
4. HIV/AIDS をめぐる集合行為（3）——社会運動のラディカル化と自閉化
5. HIV/AIDS をめぐる集合行為（4）——ゲイ・アクティヴィズムの興隆
6. 「被害者」になることの社会学的検討（1）
7. 「被害者」になることの社会学的検討（2）
8. （伝統的）集合行動論と階級闘争モデル
9. 「新しい社会運動」論の生起——集合的アイデンティティ
10. 資源動員論の誕生——フリーライダー問題への応答
11. 資源動員論の展開と収斂——政治的機会構造／動員構造／フレーミング
12. 現代の社会運動（1）——社会運動と暴力
13. 現代の社会運動（2）——ライフスタイル運動
14. まとめ

IV 学習および教育方法

講義形式。適宜、映像資料や配付資料により先行研究ならびに具体的事例を提示する。

V 評価の方法

期末試験。講義後に課すコメントペーパーの内容が優れている場合は加点する。

VI 推薦する参考書

講義中に随時紹介する。